



市 HP 内掲載記事へ

大宮町の人口

年齢	R2.9 末（前月比）
0 歳～14 歳	1,297 人（+2）
15 歳～64 歳	5,757 人（-5）
65 歳～	3,050 人（-2）
合計	10,107 人（-5）

避難所運営講演会～コロナ禍での避難所運営～

大宮町区長協議会では、今年度※¹避難所運営研修を実施しています。その一環として、10月29日、熊本県益城町（以下 益城町）で危機管理監を務めておられる※²今石佳太さんを講師にお招きし、講演会を開催しました。

講演冒頭で、熊本地震（平成14年4月14日に発生。最大震度7）での防災に関する取組をお話いただきました。次に講演テーマ『コロナ禍での避難所運営』についてお話いただきました。益城町では新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた避難所運営訓練を、全国でもいち早く実施されています。今年の9月に発生した台風10号は、熊本県全域に大きな被害をもたらしました。益城町ではコロナ禍での避難所運営を実施しており、指揮を執られていた今石さんの、現場での実体験をお話いただきました。

同協議会副会長の西村忍さんは、閉会の挨拶にて「今回の講演会を大宮町で取り組んでいる避難所運営研修で活かし、大宮町の防災力をさらに高めていきたい」と話していました。



講演会の様子

※¹避難所運営研修とは

昨年度、口大野区が主体となり実施した、有事の際の大宮町版避難所運営マニュアルの作成することを目的とした研修会で、今年度は大宮町区長協議会が主体となって実施。地域レジリエンス（地域防災、災害復興、持続可能な都市・地域への再生）」が専門である龍谷大学政策学部の石原凌河准教授と連携して実施する通年事業。

※²《熊本県益城町危機管理監 今石 佳太さん Profile》

- 1979 芦屋市消防本部入所。救助隊長や救急隊長を歴任
- 1995 阪神・淡路大地震では特命指揮担当
- 2002 市庁部局に出向し、以降新潟・福島豪雨災害、中越地震、中越沖地震、東日本大震災等の災害に先遣隊として現地入りし、本部運営の支援を担う
- 2014 企画部市長室長として秘書業務と市全般の危機管理担当し「危機管理指針」や「危機管理マニュアル」の策定を行う
- 2018 熊本県益城町危機管理監として赴任



小町公園ミュージックフェスタ 2020

五十河地区（明田区、五十河区、久住区、新宮区、延利区）では例年11月初旬に『五十河地区文化祭』を同地区基幹集落センターで行っています。今年度はコロナ禍のため、会場を小町公園屋外ステージに変更し『小町公園ミュージックフェスタ2020』が11月1日に開催されました。大宮中学校、網野中学校吹奏楽部、峰山高校軽音楽部、また地域の社会人バンドなど、7団体が出演しました。今回会場となった小町公園では、写真展も下記のとおり開催しています。是非ご来場ください。



フェスタの様子

五十河地域写真展 開催中

五十河地域で活動している京丹後市地域おこし協力隊の中川圭隊員が撮影した写真展が開催中です。「五十河地域」の四季折々の写真が展示されています。是非ご来場ください。

期間：11月29日まで（水曜休館）

場所：小町公園「小町の 舎」
（大宮町五十河 302 番地）

時間：9時～16時 ※入場無料



周枳笑顔つなぎフェスタ 2020

周枳区では「コロナ禍で落ち込んだ地域を元気にしよう!」と、区民有志による実行委員会が発足し大宮売神社を会場に『周枳笑顔つなぎフェスタ 2020』が10月17日に開催され、4グループが出演しました。

NHK 大河ドラマ「麒麟がくる」に陣太鼓役で出演された上田秀一郎さんによる和太鼓演奏、TBS サンデージャポン「カラオケスーパーグランプリ 2013」にてグランプリ賞を受賞した金山ゆいさんによる歌唱、Team Hot Sign による手話歌、鳳聲晴桜(ほうせい はるおう)さんによる篠笛演奏が披露されました。事前に入場整理券を取得された120名の来場者は「イベントを開催してくれてありがとう」「久しぶりに明るい気持ちになった」と話していました。



ステージ出演
(上) 上田秀一郎さん / (下) 金山ゆいさん

三重・森本～赤米収穫体験

10月31日、三重・森本里力再生協議会では、今年で8年目の取り組みとなる『赤米の稲刈り体験』が実施されました。これは、地域の子もたちに豊かな自然の恵みと故郷の良さを肌で感じてもらうことを目的とした取り組みで、古代米である赤米の田植え体験、稲刈り体験を実施しています。今回参加した12名の子もたちは、実際に鎌を使って稲を刈りました。慣れない手つきでの作業でしたが、子ども達は「(稲刈りが)楽しい」と話していました。体験後、参加者にはまんぐろわ三重・森本から「赤米のおにぎり」と「赤米茶」が振舞われました。



(上) 子ども達も頑張りました
(下) 毎年恒例の記念写真

■地元を離れる前の大宮町への思い
夏祭り、秋祭りが楽しい。外に出ると知り合いがたくさんいて、声をかけてくれる(嬉しかった)。美味しい飲食店が多い。

■自己紹介
私は大宮町口大野出身の安久悠和です。峰山高校を卒業後、歯科衛生士の専門学校に進学しました。現在は専門学校に通うため、京都市の二条で暮らしています。将来は京丹後市で就職したいと思っています。

今回お話しを伺ったのは、大宮町口大野出身の安久悠和さんです。11月1日に行われた『令和2年京丹後市成人式』に出席された際の晴れ着姿の写真を撮影させていただきました。今回『21歳』の視点で故郷についてお話しいただきましたのでご紹介します。

「子育てのしやすい町になってほしい」

安久 悠和さん(口大野出身)

あぐ ゆうな



安久さん成人おめでとう
ございます。お話しありがとうございました!



■10年後、20年後、どんな大宮町になってほしいですか?
私は地元で子育てをしたいから、もっと同世代の人や、買い物できる場所が増えてほしいと思う。でも自然が残ったまま、地域の方に見守られながら、育児のしやすい町であってほしいと思います。

■今後、大宮町とどのように関わっていきたいですか?
予防医学に関わる仕事に就く予定なので、地域の皆さんに健康のまま長生きできるような情報を発信していきたいです。

■地元を離れてから思いは変わりましたか?
変わらず地元就職し、家族や友達の近くにいたい

輝く人～大宮町から～